福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）　月例報告書（1 月）

留学先：The University of Findlay
氏名：　　加藤　裕樹

【はじめに】

１月も終わり、厳しい寒さが続いております。マイナス 10 度以下になるのは当たり前で、温かいコーヒーや紅茶が欠かせない季節です。道路も凍って、歩くのも大変です。２月の１週目には大雪で大学が休校になりました。今回の報告書では、2015 年、春学期の授業を中心に報告していきたいと思います。

【Final Week】

ニューヨークの旅行から帰ってきたその翌日、1 月 4 日に 2015 年の春学期が始まりました。“Spring Semester”というのは名ばかりで、全然春らしくありません。寮と授業のある建物を移動するのも厳しいくらいです。今学期は５つの授業をとっています。Elementary Spanish II というスペイン語の授業、Writing Review for Non-Native Speakers というアカデミックライティングの授業は、秋学期の続きとしてとっています。そしてさらに、Second Language Acquisition という第二言語獲得の理論を学ぶ授業、Emergent Literacy という、子どもに読み書きを教えるための知識を学ぶ授業、それから、Assessment and Diagnosis of Reading Difficulties という、リーディングにつまずいているアメリカ人の小学生にリーディングのチューターをする授業をとっています。この授業では、毎週指導案を書いて、実際に教えるという、実践的な授業です。

この中で、いちばんハードな授業が、言わずもがな、Assessment and Diagnosis of Reading Difficulties です。この学校と地域では、CLUBHOUSE と呼ばれているので、以降そう書きます。もちろんこの授業は基本的に学部の授業で、ネイティブのアメリカ人がとるのですが、どうしてもやりたいと先生に頼み込んで、とらせていただきました。ノンネイティブの私が、ネイティブの子どもたちに英語を教えるというとてもおかしな光景が毎週起こるわけです。この授業で、３人の小学生を受け持つことになりました。２人が２年生で１人が３年生です。３年生では州レベルの大きなテストがあり、それに受からないと小学生で留年することもありうるらしく、子ども、先生、親にとって、とてもナーバスな仕組みになっています。1 月の終わりに、子どもの現在のリーディングレベルをチェックするテストも兼ねた顔合わせがありました。私は CLUBHOUSE では、Mr. Yuki と呼ばれています。この日は、３人の私の生徒をテストして、ゲームをして遊んだりしました。男の子がたくさんいるので、元気い

っぱい、というか元気いっぱいすぎます。教室を走り周ったり、叫んだりする子たちもいて大変です。中には、私の用意したアクティビティーをやりたくないという子もいました。日本語で、日本人のクラスを運営していくのも大変なのに、私は、母国語ではない英語で、子どもたちと小さなクラスとして、授業を行っていくわけです。２月からこの子たちに英語のリーディングを教えていきます。不安もありますが、人生でいちばんやりがいのある授業になると確信しています。毎週いちばん緊張して、いちばん楽しみな授業です。この授業の経過は、また追って報告していきたいと思います。

【授業以外の活動】

１月に入ってからも授業以外の活動もたくさんしています。１月の中旬には、隣のミシガン州にある日本語教育の学会に参加してきました。１人ひとりの子どものレベルに合わせた教育をするために、どういう工夫をしたら良いのか考えさせられる学会でした。

そして、アメリカ人の高校生と文化の違いについて話し合うセッションがありました。若さとエネルギーに圧倒されかけましたが、アメリカ人の高校生が、こんなにも外国の文化に興味を持ってくれていることに嬉しく感じました。

さらに日本語プログラムのパーティーとして、おもち・書き初めパーティーをしました。アメリカ人に日本文化を教える目的ですが、みんな没頭して字を書いていました。何枚か写真を掲載しておきます。

ではまた来月の報告書で！